

パーソルキャリア
アパレル・ファッション業界の「2020年版 平均年収」を発表
コロナ禍での平均年収は、341万円と昨年より4万円増
年収600万円を超える人材が増加

転職サービス「doda」などを提供するパーソルキャリア株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：峯尾太郎）が運営するアパレル・ファッション業界専門の転職支援サービス「クリーデンス」< <https://www.crede.co.jp> >は、「クリーデンス」登録者における2020年のアパレル・ファッション業界の「平均年収」をまとめましたので、お知らせいたします。

詳細：https://www.crede.co.jp/contents/news/apparel-income_index.html

調査トピックス

- ・【全体】アパレル・ファッション業界の平均年収は、341万円と昨年よりも4万円増加。
- ・【職種別】平均年収が最も高い職種は「OEM 営業」464万円（昨対比+71万円）、次いで「VMD」452万円（昨対比+49万円）と、昨年の平均年収を大きく上回る。
- ・【職種別】「販売」「EC」は昨年とほぼ変わらず、転職希望者の層に変化がないことが伺える結果に。
- ・【年代別】年収のボリュームゾーンは、各年代ともに「300～349万円」。

<調査概要> 2020年1月～12月までに「クリーデンス」に登録した人の年収データより算出

【職種別】平均年収

職種別平均年収

職種	25～29歳		30～34歳		35～39歳		全体		
	2019年	2020年	2019年	2020年	2019年	2020年	2019年	2020年	前年比
デザイナー	318万円	325万円	376万円	368万円	434万円	436万円	365万円	366万円	↑ 1万円
パタンナー	307万円	320万円	354万円	326万円	401万円	338万円	343万円	326万円	↓ 16万円
MD・バイヤー	390万円	362万円	482万円	427万円	523万円	452万円	456万円	414万円	↓ 42万円
VMD	329万円	348万円	438万円	454万円	475万円	512万円	403万円	452万円	↑ 49万円
プレス・販売促進	378万円	378万円	461万円	438万円	504万円	492万円	431万円	419万円	↓ 11万円
OEM営業	371万円	367万円	387万円	434万円	426万円	656万円	393万円	464万円	↑ 71万円
営業	376万円	371万円	449万円	453万円	478万円	501万円	425万円	432万円	↑ 7万円
店長	349万円	363万円	391万円	376万円	429万円	432万円	391万円	390万円	↓ 1万円
販売	301万円	300万円	327万円	331万円	356万円	346万円	316万円	315万円	↓ 1万円
生産管理	345万円	359万円	386万円	395万円	438万円	503万円	385万円	415万円	↑ 30万円
EC・通販関連	338万円	338万円	386万円	389万円	461万円	436万円	389万円	385万円	↓ 4万円
全体	311万円	313万円	351万円	355万円	396万円	401万円	337万円	341万円	↑ 4万円

■ 総括

2020年の平均年収は、**341万円と昨年より4万円増加しました**。職種別でみると、最も平均年収が高い職種は「**OEM営業**」の**464万円**、次いで「**VMD**」の**452万円**、「**営業**」の**432万円**となりました。

また、前年比で見ると、「**OEM営業**」「**VMD**」「**生産管理**」はそれぞれ**+71万円**、**+49万円**、**+30万円**と大きく増加。一方「**MD・バイヤー**」は、**-42万円**と大幅に減少しました。

2021年のアパレル業界は、**2020年以上に変革を加速させる1年になる**でしょう。そのため、「**EC**」だけでなく「**IT**」「**DX**」に携わる人材のニーズが引き続き高まると考えられます。また、店頭に立ってブランドの魅力を伝えるだけでなく、**SNSなども活用しながらお客様に寄り添い、顧客を生み出す「販売員」の価値が見直されています**。それぞれの分野の**プロフェッショナルを求める企業が増加するため、アパレル業界の年収は二極化すると予想**されます。

■ 平均年収の上がり幅が大きい3職種の解説

① OEM営業：平均年収464万円（前年比+71万円）

「OEM営業」は、取引先や工場などとのつながりが重視されることから、1社で長く働く傾向がある職種で、これまでは経験が浅い方の異職種へのジョブチェンジを希望した転職活動が多くみられました。しかし、コロナ禍で取引先であるセレクトショップなどが業績不振になったことを背景に、**経験年数が長く即戦力となるハイクラス層がD2CやECに携わる企業に転職を考えるケースが増え、平均年収を押し上げる結果**となりました。

② VMD：平均年収452万円（前年比+49万円）

売りたい商品を見えやすくするなど、商品化計画を視覚的に行うことで店舗を作り上げる「**VMD（ビジュアル・マーチャンダイジング）**」は、店舗の売り上げを左右する重要な役割。「**VMD**」を目指してキャリアを積む人が多いのが特徴で、他の職種と比較してジョブチェンジを考える人が少ない職種です。しかし、2020年は企業の倒産・ブランド閉鎖など現職を離れなければいけない状況になり、**転職を考えざるを得ない人が増えたことや、EC化率の向上に伴い、VI設計・UX設計・UIデザインなどを担うECに特化したVMDのポジションで即戦力となる人材を求める企業が増えたことにより、「VMD」として豊富な経験のある35歳以上の方の登録が増え、平均年収を大きく引き上げました**。

③ 生産管理：平均年収415万円（前年比+30万円）

新型コロナウイルスの影響で店舗の休業が余儀なくされたことや、外出自粛に伴い客足が遠のく状況が続いたことから、**2020年は“余剰在庫”に対する課題感が強まった1年**でした。さらにSGDsに取り組む企業も増えたため、**商品の製造量をコントロールする「生産管理」を求める企業が増加**しました。また、**ECの売上比率向上によって物流に携わる人員を強化する企業も増えています**。どちらも、即戦力となる人材を求めるニーズが高く、平均年収が増加したと考えられます。

■ 平均年収の下がり幅が大きい3職種の解説

① MD：平均年収414万円（前年比-42万円）

「**MD（マーチャンダイザー）**」はファッションブランドの指揮官とも言われ、ブランドを作るうえで重要なポジションの1つです。**ブランドの売上が給与や賞与に反映されるケースが多く、業績不振が相次いだ2020年は、新型コロナウイルス流行前と比較し、年収が減少したと考えられます**。また、先行き不安な状況が続いたことで、**経験の浅い若年層が転職活動を始める傾向にあったこと**も平均年収が減少した要因であると言えます。しかし、2020年の終わりから現在にかけては、**ECに特化した商品戦略や数値分析などを行う「MD」のニーズが高まっていることから、今後、年収は引き上がる**と予想されます。

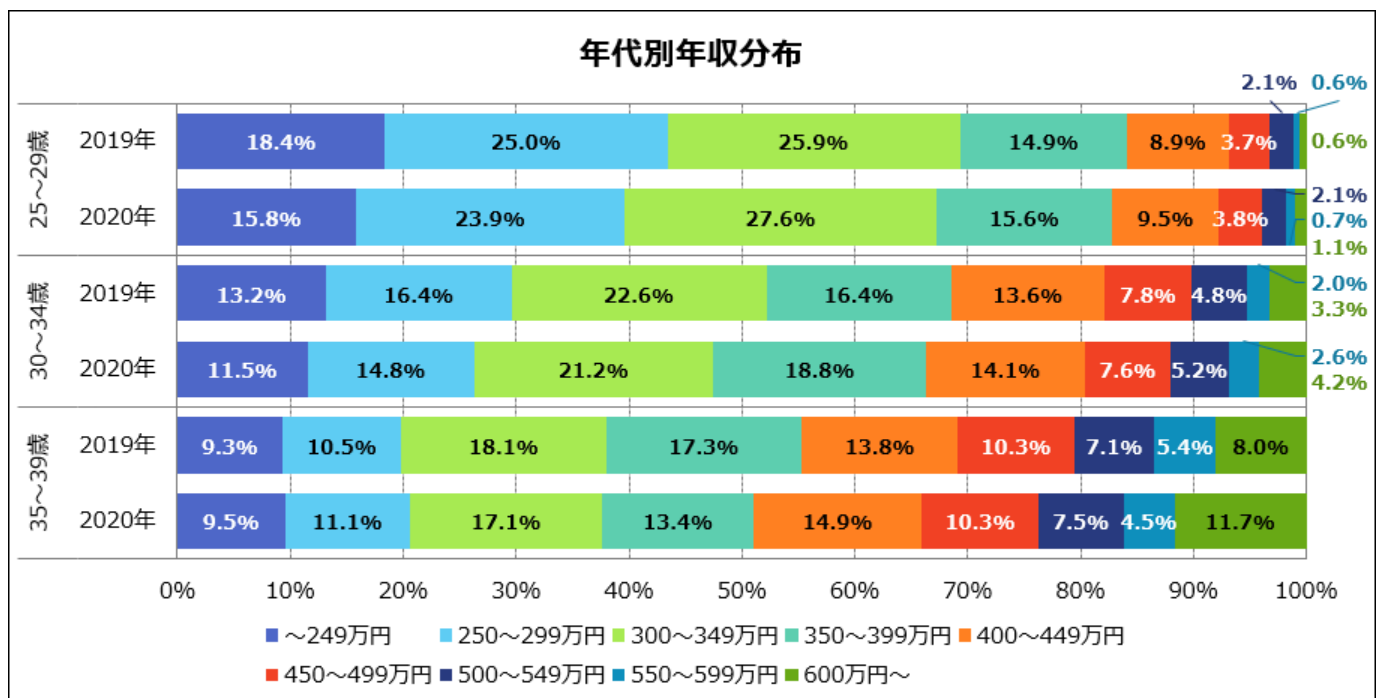
② パタンナー：平均年収326万円（前年比－16万円）

新型コロナウイルスの影響を受け、パターン作製を海外の工場へ委託する企業が増えたことで、転職せざるを得ない状況に置かれるパタンナーが多くなりました。しかし、**3DCADのスキルや素材や仕様の深い知識を持つ人材**は、引き続き現在の会社で働き続けるケースが多かったため、平均年収が減少したと考えられます。また、「パタンナー」は**ライフスタイルに合わせて時短勤務で働く人が多い職種**です。そのため、他の職種と比較して平均年収が低くなっています。

③ プレス・販売促進：平均年収419万円（前年比－11万円）

「プレス・販売促進」は、ブランド認知拡大という非常に重要な役割を担っています。しかし、商品サンプルの管理や雑誌社とやり取りを行う「プレス」の業務は、コロナ禍において縮小傾向にあり、転職希望者が増えました。特に**アシスタント業務を行う比較的経験が浅い人材の登録が増え、平均年収が減少**しました。一方、EC化が加速したことで「デジタルマーケティング」「EC販促」など、デジタルに関わる業務のニーズは高まり続けています。異業界からスキルのある人材を採用したいという企業の声も多く聞かれることから、企業は年収を引き上げて採用活動を行うことが予想されます。今後、**年収は増加する**でしょう。

【年代別】平均年収



年代別で平均年収を見ると、**各年代ともに「300~349万円」がボリュームゾーン**で、年収分布は2019年と大きく変わらないことが明らかとなりました。一方、平均年収が「**600万円以上**」の割合は、**各年代で増加**。これはマネジメントや専門性の高いスキルを持つハイクラス層が、会社の倒産やブランド閉鎖に伴い**転職を余儀なくされたこと**に加え、D2Cやインテリアやなどコロナ禍においても業績を伸ばしている業態への**転職を求める傾向が強まったこと**が要因であると考えられます。

■解説者プロフィール クリーデンス 事業責任者 河崎 達哉（かわさき たつや）

1984年、兵庫県生まれ。

2008年、株式会社インテリジェンス（現社名：パーソルキャリア株式会社）入社。

キャリアアドバイザーとして、IT・ウェブ領域や金融、医療を担当。また、さまざまな業界のハイクラス層の転職も支援。これまでに支援した転職希望者は、1,500名を超える。

キャリアアドバイザー部門のゼネラルマネジャーを経て、2019年4月からは「クリーデンス」の事業責任者として、アパレル・ファッション領域の人材サービスをけん引している。



■「クリーデンス」について < <https://www.crede.co.jp/> >

「クリーデンス」は、パーソルキャリア株式会社が運営するアパレル・ファッション業界専門の転職支援サービスです。2001年のサービス開始より「ファッションは、人が創る。」を理念に掲げ、ファッションの世界に携わるすべての人たちが、それぞれの持つ能力を十分に活かせるような環境の実現を目指しています。また、2015年からは転職支援（採用）以外に、法人向けの教育・育成支援サービスも開始。近年はこの領域を強化しています。時代の感性をリアルタイムで捉えながら、ファッション業界を支える“人”に関する情報を独自の視点で収集・発信し、業界全体が常にいきいきとしたワークフィールドであり続けるために貢献します。

■パーソルキャリア株式会社について < <https://www.persol-career.co.jp/> >

パーソルキャリア株式会社は、－人々に「はたらく」を自分のものにする力を－をミッションとし、転職サービス「doda」やハイクラス人材のキャリア戦略プラットフォーム「iX」をはじめとした人材紹介、求人広告、新卒採用支援等のサービスを提供しています。2017年7月より、株式会社インテリジェンスからパーソルキャリア株式会社へ社名変更。グループの総力をあげて、これまで以上に個人の「はたらく」にフォーカスした社会価値の創出に努め、社会課題に正面から向き合い、すべての「はたらく」が笑顔につながる社会の実現を目指します。

■「PERSOL（パーソル）」について < <https://www.persol-group.co.jp/> >

パーソルグループは、「はたらいて、笑おう。」をグループビジョンに、人材派遣サービス「テンプスタッフ」、転職サービス「doda」、ITアウトソーシングや設計開発など、人と組織にかかわる多様な事業を展開しています。グループの経営理念・サステナビリティ方針に沿って事業活動を推進することで、持続可能な社会の実現とSDGsの達成に貢献していきます。

また、人材サービスとテクノロジーの融合による、次世代のイノベーション開発にも積極的に取り組み、市場価値を見いだす転職サービス「ミイダス」、テクノロジー人材のエンパワーメントと企業のDX組織構築支援を行う「TECH PLAY」、クラウド型モバイルPOSレジ「POS+（ポスタス）」などのサービスも展開しています。